

2017年 1月 10日

あけまして おめでとう ございます

新しい年を いかがお過ごしでしょうか。
新年ですから、未来に対する願いを、一言お話ししたいと思います。

今 とても ギリギリの時代なのではないでしょうか。
目の前に立ち現われてくる出来事や社会の状況や自然の現象の ひとつ
ひとつが、見えない何かえたいの知れない大きな力を背景にして
生み出されてきているような気がしてなりません。
そんなことを強く感じながらも、時の節目に夢を描き、願いをかけます。

人々はセタヤ 新年には、少なからず願いや夢を持つことでしょう。
子どもたちは素敵に今を夢見、いつの日にか...とわくわくします。憧れの
何かと自分を重ねたり、お花屋さんや新幹線の運転手さんになりた
かったり、犬やおもちゃやお星さまが欲しかったり、~ちゃんと結婚して
子どもが10人欲しかったり...様々です。
大人も切実な願掛けをしたり、具体的な祈願をしたり、努力して
いる目標が達成するように自らを奮いたたせるべく願ったり、社会の
あるべき理想を夢見たりします。

しかし 毎年思い描く夢や願いは、中には実現可能なものも
いくらかはありますが、むしろ実現できないことの方が多いのかも
しれません。「それはただの夢物語だから...」などと「夢」
という言葉は、おとぎの国の作り話の中だけのことのように取り
あげられかわません。

昨年の暮に、師から「現代は理想が持てない時代のように
言われることが多いけれど、そうではなく、たくさんの理想がある
のに、それらの理想には実現する力がない。実現する力を無力に
してしまうような状況にある」という話を聞きました。

なるほど確かに そうなのかもしれません。
もしそうだとするなら、そうであればあるほど、そこに留まっている訳には
いきません。私たちは次のような問を、自らに向けなければなら
ないでしょう。

「私の中にある理想に、自らを実現していく力がないとしたら、
そこに力を与えるために、私は何をすることができるのだろうか」と。

いい流れができるように経済の仕組を整えても、一人ひとりを支え守る法律を社会が持っていたとしても……、一人ひとりの生き方をそれらが決める訳ではないはず。経済生活や法的生活など、それらの社会の働きが人々を支え守るためにあり、もし実際にどんなにゆたかに人々の生活や生き方の支えになっていたとしても、一人ひとりの輝くような願いや夢がそこから生まれてくるではありません。私たち一人ひとりがどう生きたいと願っているのか、という生き方の理想は、ましてや えたいが知れない何か外からの大きな力によって方向づけられるようなことであっては決してならない……でしょう。一人ひとりの自由な精神性から生まれ、求められなければならないのだと思います。

理想は 理想たり得るときに はじめて力を得ることか
できるのでしょうか。

先人が、どんな運命や状況の中でも「一人ひとり それぞれにはその人にしかたどることができない 一本の道が与えられている」ことを示してくれました。納得しきれない人生でも、何と大きな励まして！ 私たちは 理想に力を与えるために 精神文化の自由を守るべく、自らの生き方に真剣に向かわなくてはならないのでしょう。

なぜなら えたいの知れない闇のような力は、他ならない私自身の問題として、我が身の中でも(中でこそ)働いているに違いないからです。

そのために、自分の生きる目的と意味とその歩み方を、外側の価値に求めるのではなく 自分の内に求め生きていこうと思います。

そしてさらに、次の一步を踏み出す必要があるでしょう。

自分と同じように誰もか かけがえのない 一本の道を歩いているのですから、私の道には たくさんの道たちが交差したり、ある時は重なり合っているでしょう。その交差や重なりを、私たちは「出会い」と呼んでいるのだと思いますが、その意味を深く受けとめ合い、悦び合う時に何か大切な熱 = 理想を励ます力が生まれてくる気がするのです。

一本の道を歩く「私」が抱く理想が理想たり得るといことは、交差し並行する道を歩む「あなた」の理想が理想たり得る！という精神文化を、社会創造の場としての私自身の内に作り出すことなのだと思っています。

どう声を出したらいいのか、どう進んだらいいのか……とても難しい時代の中で、たくさんの光も生まれています。

2017年、私たちの中で大切ないのちある作業を進めていけることを願っています。

園長 升光 泰雄